

2012年 9月 30日発行

③ 礼儀

9月議会の一般質問で「内部被曝」を取り上げたのは、子ども達の命と健康が何より先だからです。7月に国分寺にある民間の放射線量測定所を視察しました。そこにある放射線量測定器は150万程度のもものながら、昔から自然界に存在するカリウム40と福島第一原発によるセシウム134と137を別々に測定できるもので、現在新座市が持っている線量計とは「月とスッポン」のものでした。内部被曝を防ぐには食べる前に人工放射線量を検査する必要があります。今の新座市の検査体制では話にならないのです。そこで、この測定器を各学校に配置する必要性を15分近くかけ訴えたのですが・・・教育長は「教育委員会としましても学校に放射線量の測定所を設置する考えはございません。」というたったの1行の答弁で済ませました。2218人の市民を代表して質問しているのに、答弁が一行とは・・・その礼儀を知らない態度に久しぶりに怒りを覚えました。子ども達の命と健康を守るべき立場の人間が、この大問題を一行で片付ける。悲しいけれど、新座市教委には血も涙も感じる事ができなくなりました。野火止や中央公民館で市民やPTAのお母さん達が「内部被曝についての講演会」をやるうとしても、中央公民館長が拒否し、それを教育長も支持するのですから、どうかしていきましょう。本会議の場でも「内部被曝」という言葉を口にした瞬間、議員席の最前列から大声で野次が飛びました。傍聴人がいるのに、居眠りする礼儀のなさ。新座の子ども達のことを本気で心配して発言しているのに、それを大声で野次る礼儀のなさ。本当に情けなくなりました。今回の補正予算でも、地下鉄12号線の延伸の為に基金には市民の税金を3億も積む余裕を見せながら、子ども達の命と健康を守ることに完全に後ろ向き。150×23=3450万円は安い買い物です。内部被曝の影響が出始めるのはこれからなのです。



文教環境常任委員会の休憩の時の笑顔です。9年目で初めてネクタイをしなかった議会でもありました。委員長の仕事にもやっと慣れてきたかな・・・。

たかやんのプロフィール



本名たかむらともや。教育を語らせたら、止まらない男。都立石神井高校を経て北海道大学へ。新座五中・六中・二中で21年間を過ごす。2012年、2218票で当選。新しい会派「市民と語る会」を結成。文教環境常任委員長。「たかやん塾」塾長。「黒目川川づくり懇談会」代表として月に一度の川掃除に燃えている。子ども達の内部被曝を防ぐ為に「給食ゼロベクレル宣言」を訴えている。五・六中の男女硬式テニス部を率いて、関東大会5回、全国大会2回優勝。学級通信「一生懸命」を毎日発行。NHKの「おはよう広場」やインターネットテレビに出演。

議員日記は8年8ヶ月、毎日更新し、市民目線の議会報告を毎月発行している。HPIは20万9千アクセスを超える。新座初のツイッター議員であり、mixi、facebookでも発信している。日々教育を考え「観光新座」ではなく「教育新座」「環境新座」を。「脱原発」「反TPP」「ふざけるな消費税増税!」を訴えている。

たかやんの応援団 で 検索

③ 保谷・朝霞線

今回の議会で市長は「20mで行きます！」から「国、東京都、県が27mでなければ駄目だ」というのであれば、受け入れざるをえない」と大方向転換しました。一方で県の担当課は「一番大切なのは地元の同意です。」国が認可をするには、27mであっても254まで繋がるのが前提でなければ難しいでしょう」と言っています。この二つの問題を同時に解決することは極めて難しいと思います。そして新座市には財政的に大変なことが待ち受けているのです。新座駅北口の区画整理に128億(市の負担は64億)、庁舎の耐震補強または建て替えに6億から60億。大和田2、3丁目の区画整理に学校の大規模改修、地下鉄12号線の馬場への延伸に放射7号の建設、学校、公園、公共施設の借地の買い取り、気が遠くなるような額です。経常収支比率が23年度決算で92%を超える市にそんな事業ができる訳がないのです。市民の住環境から見ても、市の財政から見ても、広域的な道路の価値から見ても、保谷・朝霞線は必要がない。保谷・野寺線、保谷・道場線などいらない。僕達はそう思っています。また、市長は「住民は20mでやってくれと言っている」という表現をしていましたが、僕は「それは違う!道路そのものを作ってほしくない、と思っている人は沢山いる。どうしても作る事になったら、27mではなく20mでということだ。」と訂正をしました。この道路ができることで市に払い下げになる県道の維持補修費もこれから半永久的に市の負担になっていくのです。下の写真は都側の道路予定地。36m幅の広さが分かります。遙向こうに五中の校舎が見えます。この道路は五中の校庭を削り取り、野寺、道場を分断する道路なのです。



③ 先生

僕は小さい頃から先生についています。小学校の担任も中学校の担任も高校の担任もみな素敵な先生ばかりでした。兎に角、いつも僕の周りには一流の先生達がいました。これはもう、その人が持っている「運」というしかない訳で・・・そんな僕がまた凄い先生に出会いました。まだ若いのですが、僕はその先生によって、「本気」になっているのです。「生徒をやる気にさせる先生が本物だ」と僕は思っているのですが、この下の写真の奥に見える先生が僕を「やる気満々」にさせています。この先生から学んでいることは実に多く、僕の塾でも使わせてもらっています。



その先生の名前は長久保大樹。僕の教え子の高校の後輩なのですが、力は本物です。この写真は浦和学院の生徒達と一緒にトレーニングしているところです。この子達の顧問が僕の教え子で、長久保先生はこの子達の先輩でもあります。



大樹先生に教えてもらうようになって2ヶ月経ちました。僕の体力やバランス感覚は多分、30代に近づいていると思います。時間が少しでもあると先生に会いたくなるから不思議です。

読み終わりましたら、お知り合いの方にさしあげてください! m(__)m